

トレンド

日本初の姉弟愛、日本初のツンデレやイケメン——。古事記に登場する神々のエピソードを現代風に意識するところなるぞうだ。神話の中の神々はいずれも個性豊か。そのキャラクターにひかれ、青少年向けのエンターテインメント小説、ライトノベル(ラノベ)にアレンジしたり、音楽やドラマにしたり。神々を創作のネタとし、楽しみながらあがめ奉る、新たな信者が増えている。

「『おおくなんじゃこ記を現代語訳っていうかりやう? カッケェ!』 ラノベ風にしてみた。」「サブカルチャーにおける古代史をけん引する大なる最強武器的なソレじゃね?」

ギャグ漫画ではない。古事記でスサノオが八岐大蛇(やまたのおろち)を退治して草薙剣(くさなぎのつるぎ)を手に入れた有名な場面だ。「これはすごい。革新的だ」。古代史が好きな川崎市の漫画家、相河柚希さん(38)は昼夜を忘れてグイグイ読んだと振り返る。作品名は「古事

個性的キャラ、ラノベに降臨

事記を読まないどだめね」と言われ、初めて触れた。「ストーリーは面白いし突っ込みどころ満載。最高神アマテラスが女の子というのもキュンとした。(岩戸から出て来て)引きこもりの子に勇気を与えてくれる」

様々な関連書籍を読んだが「多くは初心者には難しい。面白さを広めるため入門編を作ろう」とラノベ風に訳した文章をネットにあげた。するとページビュー(PV)は月50万件を突破。「ラノベ古事記 日本の神様とはじまりの物語」の題名で昨年、KADOKAWAから出版された。

古事記関連の書籍は少しずつ存在感を増している。児童書の構成社(東京・新宿)が2017年12月に出した「絵物語古事記」は4カ月で3刷1

聖書発の漫画・ゲームも



万7000部「予想以上の売れ行き。男性会社員も買っている」(同社)

古事記は「ネタの神様」!?



「ラノベ古事記 日本の神様とはじまりの物語」作者の小野寺優さん(写真右)。サイトに載せている神様のイラストも今風だ(同左、Lee氏制作)



エンタで楽しく あがめ奉り～